

## フランスのお香？！アルメニアペーパーの使い方と効果をご紹介します

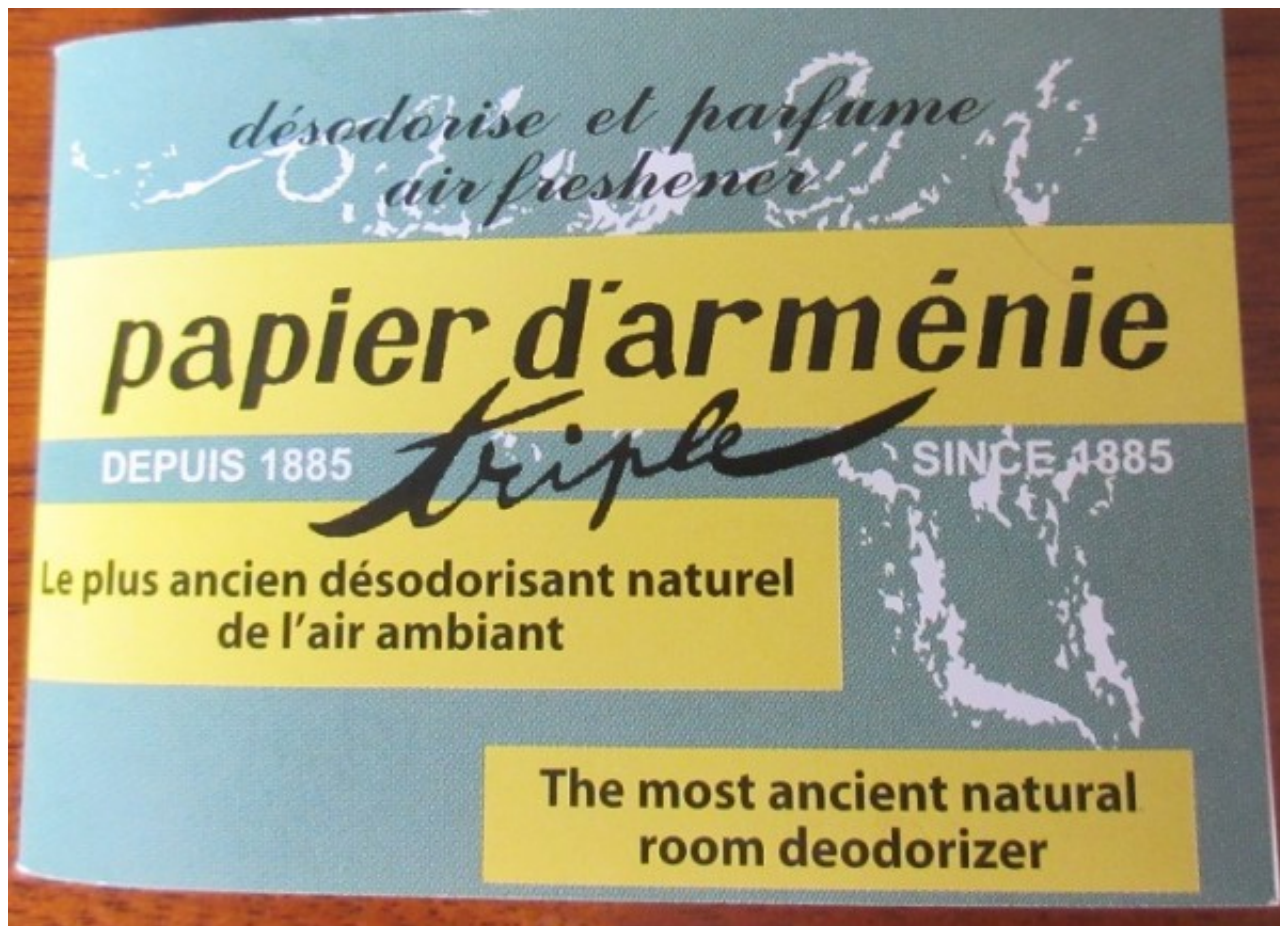
---



今回は日本の線香に似た、フランスのお香についてご紹介します。フランスにも、燃やすことで、同じように匂い消しや香り付けに使われるものがあります。その名は、「papier d'Arménie (アルメニアの紙)」です。

### フランスのお香 アルメニアの紙とは？

---



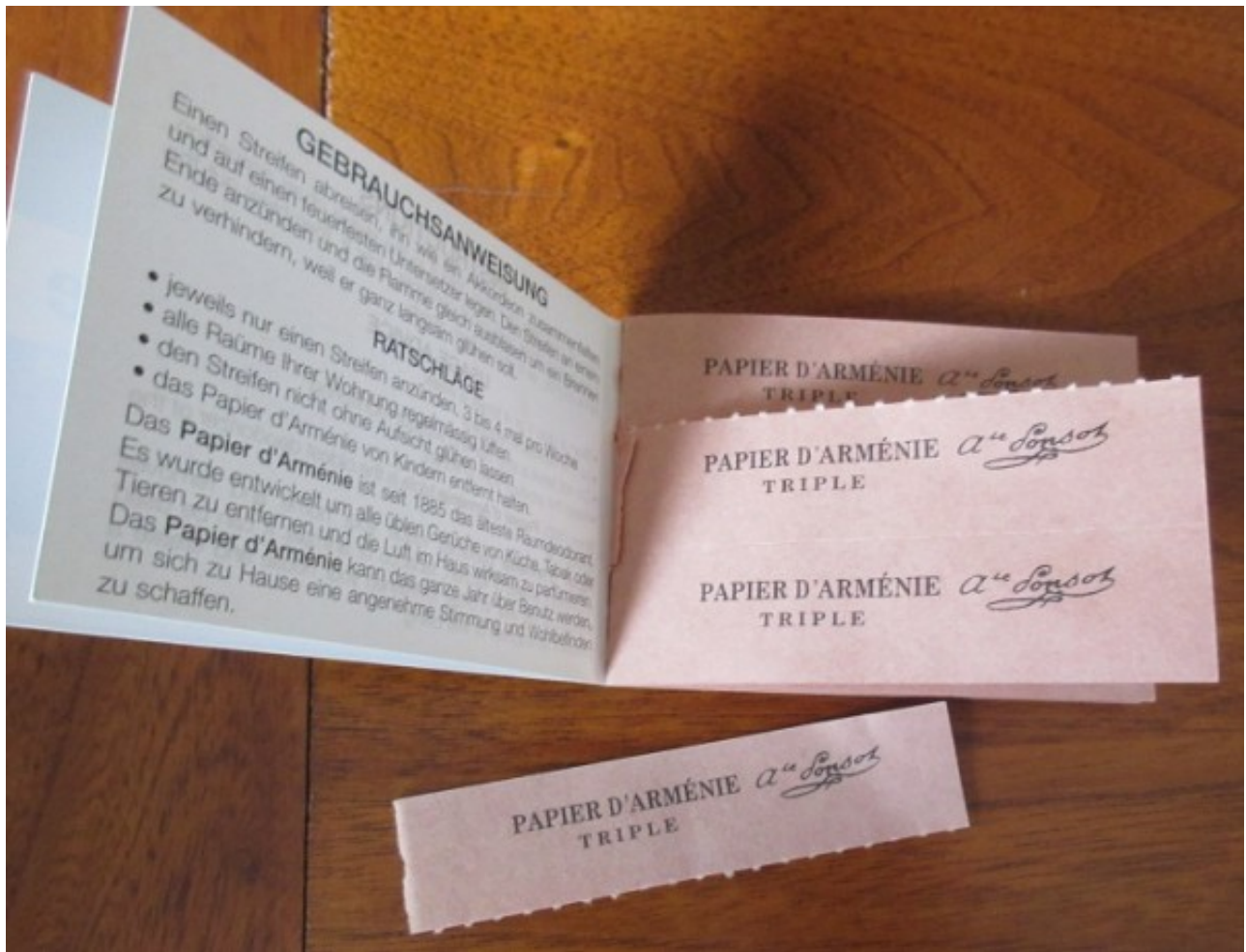
新年を迎え、初詣で仏閣を訪れ、線香の香りに癒された方も多いのではないのでしょうか。日本の線香は、文字通り線のように細いお香で、伽羅や白檀などの香木を使ったものが多く、独特の芳香を漂わせます。

こちらの写真は**安息香の木の樹脂の香りを用いたもの**です。時は19世紀。フランス人化学者オーギュスト・ポンソは、アルメニア人が、家の殺菌のために安息香を燃やすのを目にしました。

これにヒントを得たポンソが、薬剤師アンリ・リヴィエの協力を得て作ったのが「**アルメニアの紙**」。安息香を90%のアルコールに溶かしたものを吸い取り紙と組み合わせたもので、1885年よりモンルージュで製造されるようになりました。

**アルメニアの紙の効能は？**

---

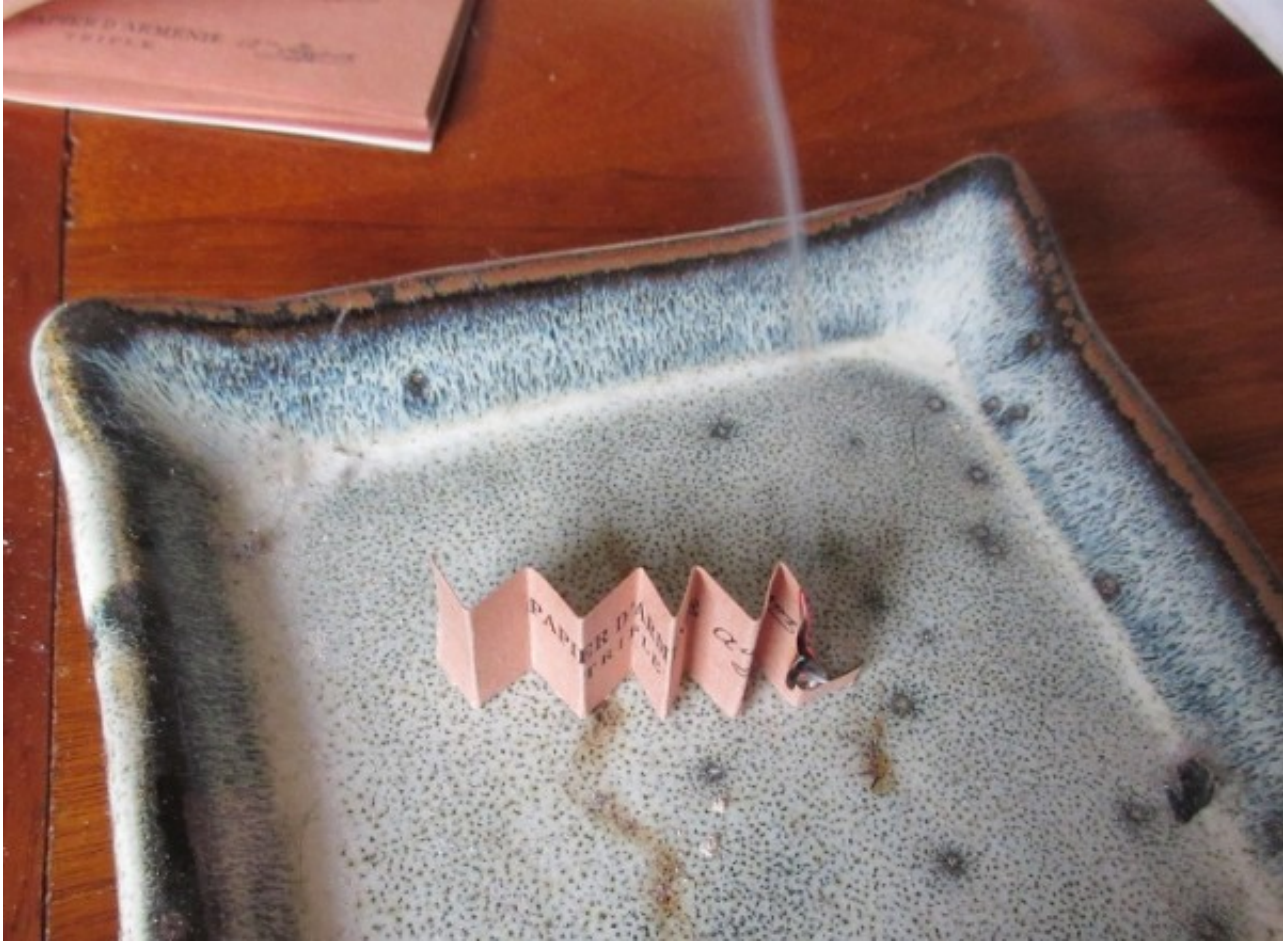


1888 - 89年の衛生展覧会に出品して成功を収めたほか、多くの国際展覧会で賞を獲得しました。効能として挙げられたのは、**空気の浄化、ダニ退治、揚げ物や煙草、動物の匂い消し**など。

実際には空気を浄化するとは考えにくいものですが、匂い消しとしては有能なようで、今でも好んで使うフランス人が多くいます。その形状は日本のあぶらとり紙に似ていて、12枚の小さな紙を綴じた冊子の形をしています。

一枚の紙は切り取り線で3枚に分かれるようになっていて、それを一枚ずつ使うので、合計36回使うことができます。

## アルメニアの紙の使い方



一回分の細長い紙は、アコーディオンのように折り曲げて火をつけ、線香同様、炎は消して、くゆらせるのが正しい燃やし方です。線香に比べると燃え尽きるのは早いですが、後には同じようになんとか懐かしい香りが残ります。

**アルメニアの紙はどこで買える？**

---



この「アルメニアの紙」。今ではバラの香りのものなども出ているようです。面白いことに、**売られているのは薬局**。スーパーなどでは手に入りません。薬剤師の手によって生まれたものだからかもしれませんね。



執筆：ゆき

オンラインフランス語学校

# ENSEMBLE EN FRANÇAIS

アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

